

校長室だより第6号（令和7年5月8日）

GW明けの5月7日（水）は、前日の雨が嘘のように晴れ渡りました。さわやかな天気に応ずるように、校門に立つ私に元気に挨拶をしてくれました。にこにこしている子が多く、楽しいGWを過ごしたことがうかがえます。

さて、第6号は私がGWに出かけたことを記します。私事となりますがお付き合いください。

まずは、日本橋に行ってきました。日本橋では、今年の大河ドラマの主人公『葛屋重三郎』と共に謎を解く企画に挑戦しました。現代に迷い込んでしまった葛屋重三郎と共に日本橋の街を散策しながら謎を解き、彼を無事に江戸時代に返すという物語です。（詳細を知りたい方はHPを参照しましょう）

案内所でキットを購入し、謎解きがスタートしました。地図を頼りに各所を回り、謎に挑戦します。答えを導きだしたら、スマートフォンを使って送信します。（ここが現代的です。この物語の中の葛重は、スマホのことを『光る板』と言っていました。）正解すると次に進めます。しかし、謎が難しく、悪戦苦闘する私。友人たちと協力しながら、すべての謎を解き明かしたのは夕方でした。（10時過ぎから始め、昼食や休憩を挿みながら進めたので正味5時間位でしょうか。）街の散策と共に自然と歴史にも触れることができ、頭と体も使う、とても楽しい1日でした。

次の日には佐倉市にある歴史民俗博物館（通称：歴博）を訪れました。歴史好きな私にとって、歴博はよく行く博物館です。今回は企画展『時代を映す錦絵～浮世絵師が描いた幕末・明治～』（5月6日終了）が目当てです。こちらも大河ドラマと連動している気がします。そのためなのか、それともGWだからなのか、企画展会場は大変混雑していました。

江戸時代のメディア側は、入手した情報を錦絵と文字で庶民に伝えたいと考えます。しかし、幕府によって様々な制限が設けられていたので、自由に発行することができませんでし

た。特に政治に関係することは厳しかったようです。

そこでメディア側は知恵を絞り、人間の代わりに動物（ウサギやナマズ）や幼子に戦をさせたり、室町時代以前の歴史的出来事に重ねたりして表現しました。鬼と人間の戦いを描いた錦絵をよく見ると、鬼の角の部分がロウソクになっています。その当時、ロウソクは会津藩の特産品だったので、その鬼は会津藩を表しており、旧幕府軍と官軍（明治政府）との戦争（戊辰戦争）を表現した錦絵なのです。さらによく見ると、着物の模様からどこの藩かがわかるようになっています。例えば、籠の模様＝鹿児島＝薩摩藩という具合に。

大変楽しい企画展で、時を忘れて楽しむことができました。もちろん通常展示（太古から現代まで）も面白いので、特に歴史の学習が始まる6年生は歴博に行く価値が十分にあります。私事の第6号にお付き合いいただきありがとうございました。